

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	9	大学等名	明石工業高等専門学校
テーマ	テーマ I アクティブ・ラーニング		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・「学生の主体性」を伸ばす「Co+work」は、異分野・異年齢8人が1チームとなり、1年間をかけてプロジェクトを完遂するというものであり、非常に面白い試みである。特にプロジェクトの内容が、チャレンジ精神を含みながら、「チーム以外の誰かを幸せにする活動」である点は、現在の社会において極めて重要なテーマであり、評価できる。
- ・事業は全学的な実施体制のもと、地道に実施されている。事業の改善のため、有識者懇談会を実施して就職先企業、編入学先の大学、教育研究者から意見を徴集するのみならず、教員同士の意見交換会が行われていることは重要である。また、保護者側からの意見の徴集や、OECD 日本イノベーション教育ネットワークとの協力体制も有意義である。さらに、学生への個別インタビューや学生懇談会により、学生側の意見も徴集される仕組みができていることは大いに評価できる。
- ・地道な努力が実を結び、全国 51 校の高専のアクティブ・ラーニング (AL) 推進モデル校に指定され、多数の高専からの訪問があるなど、事業の成果が大きく現れていることは評価できる。また、AL 推進勉強会も実施し、本事業成果の普及に努めていることは評価できる。

<改善を要する点>

- ・「学生の主体性」を伸ばす1年生の授業及び「Co+work」では、各チームを担当する教員の力量が問われる。教育力のみならず、教員の研究力の増強も図ることが必要と考える。また、ALが重視されることも重要だが、それ以外の学習・学修、指導方法もあるので、AL一辺倒とならないように留意する必要がある。
- ・宿題や課題に費やす時間を機械的に授業外学修時間(自学自修)として算定しているが、課題の与え方を通り一遍にすると自発的な学修を妨げてしまう恐れがある。宿題や課題の内容の精査が必要であり、中間評価調書に述べてあるとおり、「主体的な学修習慣を実質化させるためにも、授業外学修時間の推奨とトラッキング」の継続が必要である。